

地域食農連携プロジェクト(LFP)の推進について

—LFP推進委員会委員長：(公財)日本植物調節剤研究協会理事長・大谷敏郎—

令和3（2021）年度より「地域食農連携プロジェクト（LFP：Local Food Project）推進事業」が新規にスタートし5カ月が経過する。趣旨の徹底や共通認識の熟成、個別課題の把握、事業の成否にとって重要なスタートアップの取り組みなどを紹介する。

◇LFP事業の趣旨—目指す未来と取り組み

LFP事業は、これまでの6次産業化や農商工連携といった事業とは一線を画すコンセプトで設計されている。すなわち、「社会的課題解決」と「経済的利益」を両立させ、持続可能なフードビジネスを実現することを目的としている。従来、特産品の開発や、地域や道の駅などでの販売を対象としていた事業から、一步踏み出しているのが特徴である。

社会的課題には、地域での雇用や高齢化など喫緊のものから、地域や業種を超えた協力と連携が必要な安定的な生産・販売網の確立、加工・流通技術の開発、さらには文化や観光、福祉など最初から他領域と事業計画を練り上げるべきものまでである。もちろん、単一他領域ではなく、“多”領域との協力、協調も必要である。現在のところ、都道府県単位でLFP事業の展開を進めているが、都道府県の単位を超えた展開も視野のどこかに入れておくべき夢のある事業である。

LFP事業のもう一つの柱である経済的利益の確保は、当然、現実問題として周到に準備しなければならないが、三つ目の“持続可能なフードビジネス”も重要なキーワードである。“持続可能”には、長期にわたって展開できる販売事業という意味もあるが、社会的課題の解決と結び付けることで、時代の流れに耐え得る芯の通ったコンセプトを作り上げることも意味している。

このように、LFP事業は従来の農林水産省の事業とは異なる幅広い性格を持つことから、中央LFP事務局では周到な準備を行っている。事前の説明会はもとより、LFPに取り組む地域ごとの研修会や個別プロジェクトの戦略会議、プロジェクトの内容に応じたLFPコーディネーター（実践経験のある専門家）とのマッチングなど、きめ細かな対応を行っている。この中で、私の属するLFP推進委員会は、活動の考え方や方向性、個別テーマの内容などLFP事業全体について、広い視野で助言することを目的に活動している。

ところで、次ページに示した「LFPがめざす未来と取組」の図にある「イノベーションし続けることができる仕組み」について、ここまであえて説明を避けてきた。研究開発に長く携わってきた私には、イノベーションとは、まったく新しい概念や方法で従来の概念を根底から覆す、いわゆる破壊的イノベーションが想起される。国民の多くも、少なくとも従来にはなかった新しく輝かしい進展をもたらすものといったイメージで捉えているかと想像する。一方、「地域」「食」「農」の分野は本来、わずかな変化や進歩を時間をかけながら確実に進める分野であり、LFPでいきなり「イノベーションし続けることができる仕組み」と言われても戸惑うことが多いのではないかと推察する。そこで、LFPにおいては、従来の発想の延長線上から半歩でも一歩でも新しい方向性が見えるものは、「地域」「食」「農」分野のイノベーションと見なしたいと考えている。もちろん、革新的、破壊的イノベーションにも期待するが、これらの分野は持続的に進展することが最も重要であり、LFP推進委員会も、委員の豊富な経験と俯瞰（ふかん）的な視野から助言を行っていきたいと考えている。



大谷 敏郎（おたに としお）

1979年農林水産省食品総合研究所入所。農林水産省、内閣府食品安全委員会事務局次長、食総研所長、農研機構研究推進担当理事などを経て、2020年より現職。

◇LFP事業のスタートアップ

5月18日に第一回推進会議を開催し、農水省や事務局などの関係者により、LFPの趣旨と本年度の活動内容を確認した。同月28日には、キックオフミーティングと兼ねた研修会を、都道府県関係者と事業予定者の参加を得て開催し、趣旨と具体的な進め方などを確認した。これらと並行して事務局では、21年度に参加希望のある22都道府県の事業について、目的や事業内容、スケジュールの打ち合わせを行い、進捗（しんちよく）状況に応じてLFPコーディネーターを派遣している。6月28日の第二回推進会議では、全体の進捗状況の俯瞰と問題点の抽出、支援計画などについて議論した。現在は、秋からの本格的プロジェクト活動の推進目標と課題について確認と昇華の作業を進めている。県と事業者が一体となったLFPが成功するよう、事務局、推進委員会がきめ細かくサポートしたい。

◇「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」運動スタート

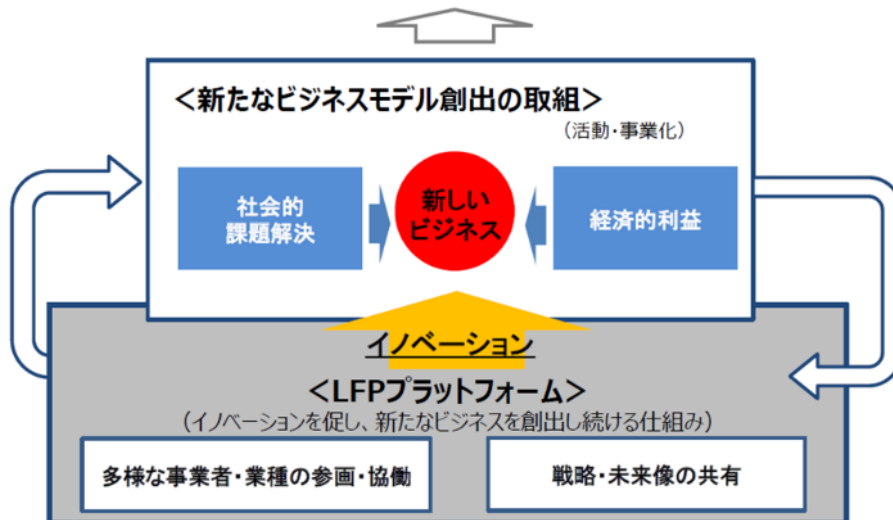
7月20日、農林水産省から、食と農のつながりの深化に着目した新たな国民運動「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」を開始することが公表された。「時代の変化に対応し日本各地の食を支えてきた農林漁業者・食品事業者の努力や創意工夫について消費者の理解を深め、良いところは伸ばし変えるべきことを変え新しいことにもチャレンジする取り組みを応援する新しい国民運動です。」とあり、現在アイデア募集段階である。LFPと表裏一体の活動と位置付け、LFPからもアイデアを提供できるのではないかと期待している。

＜LFPがめざす未来と取組＞

- 「社会的課題解決」と「経済的利益」の両立
- これを実現する新たなビジネスモデルの創出＝イノベーションし続けることができる仕組み
- よりよい社会、持続可能な未来の創造

持続的なローカルフードビジネスの構築

より良い社会、持続可能な未来の実現



＜LFP推進委員名簿＞

伊藤 啓一	株式会社舞台ファーム 常務取締役
大谷 敏郎	公益財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事長
荻野 浩輝	農林中央金庫 特別参与、一般社団法人 AgVenture Lab 代表理事理事長
齋藤 隆太	株式会社ライトライト 代表取締役
三輪 清一	感性価値創造研究所 所長